



www.fao.org

ジェンダー平等

主な動き

2007年、世界の農業人口に占める女性の割合は、41パーセントでした。

アフリカでは、水くみや薪集め、食事の支度、食料の加工や貯蔵、農村での家事、買い物など、農村での家事作業の8割を女性が行っています。

カリブ地域、サハラ以南アフリカでは、基本食料の最大8割を女性が生産しています。

EU15カ国では、農地の77パーセントを男性が、3パーセントを政府が所有しているのに対し、女性の所有率は20パーセントです。

アフリカでは、家庭消費向けの木材の9割近く、販売向けの木材の7割が女性の手によるものです。

サハラ以南アフリカでは、インフォーマル経済で働く女性が6割を占め、農業労働全体の約7割、食料生産の約9割にかかわっています。

インドとタイの女性の土地所有者は10パーセント未満です。

サハラ以南アフリカとラテンアメリカの数カ国では、女性の世帯主が増え、その主な理由は、男性の移住、離婚、病気（特にエイズ）、紛争です。

農村開発において男女の平等参加を実現する

FAOは、農村地域での完全な男女平等の実現なくして、食料安全保障と農業発展はないと考えています。農業・農村開発において、男女にはそれぞれに大変重要な役割があり、共に農業・食料生産に貢献します。

FAOのジェンダー平等の取り組み

多くの国で、女性は家庭での食料確保と経済・農業の発展に大きく貢献しているにもかかわらず、さまざまなサービスや資源を男性と等しく利用することができません。農村女性が農作地を所有することはまれで、多くの場合、法律で土地の所有を禁じられています。担保となる土地がないために、農機具や種子、肥料の購入資金を借りることもできません。女性は地域の協同組合や農民組織、農業研修プログラムへの参加機会が妨げられており、その背景には、

時間も手持ちの資金もなく、会合も参加しにくい時間にかかれることが多いということがあります。

FAOはジェンダー平等を訴え、農村女性の経済的・社会的地位が高まるよう取り組んでいます。女性たちが日常的に受けている差別に積極的に向き合うことで、FAOは、農業・農村開発に等しく貢献している女性を政策やプログラムで支えようとする各国政府の取り組みを応援しています。

農業における女性の隠れた役割

農業統計にジェンダー視点が盛り込まれるなど大きな進歩はあるものの、農業・経済的生産と家庭での食料確保に対する女性の真の貢献度は過小評価されることが少なくありません。農村女性の農業での働きは目に見えにくく、それは彼女らの作業や生産品が市場経済のためではなく、家を守る人としての役割に関連していることが多いからです。

2010年までのFAOの予測では、後発開発途上国の女性の総労働力人口のうち、7割以上は農業部門で働くと考えられています。

農業開発戦略の効果を高めるには、男女それぞれの役割、ニーズ、優先度を認識することが重要であり、このことが、彼らが直面している不平等さを理解し、農業・農村統計に反映させるために極めて大切なことです。



©FAO/J. Villanoro

女性も男性も平等な負担が必要です。

職員の男女比の均衡

国連では、職種を問わずすべての職員間で男女比の均衡を図るという目標を定めており、FAOではこれに沿って女性専門職の採用を増やす対策を実施してきました。1994年、FAO本部で専門職に就く女性の割合は22.9パーセントでしたが、2008年には39.4パーセントにまで増加しています。

FAOでは、有能な女性を上級職を含む専門職に採用、確保するために、さらなる対策が必要であると考えています。

農村女性の実態を明らかにする男女別データ

農村女性の生産活動や、育児、食事の支度、家事などに関連する作業は表に出ることが少なく、分散しており、国の統計に正式な形として十分に反映されることがありません。こうした女性労働の実態が見えにくい状況を打破するための有効な方法が、男女別の農業データの作成です。農業・農村開発戦略で男女別のニーズと優先度を考慮した政策やプログラムを策定、計

画、実施するうえで、男女別データの欠如は重大な障害となります。

FAOは20年以上にわたり、加盟国と協力し、国の統計整備計画の下で農業センサス・調査に性別と人口の2要素を組み込むよう、奨励してきました。またこれまでの経験を基に、男女別農業データ作成のための統計ツールキットも開発しています。

FAOのジェンダープログラム

60年にわたり、FAOのジェンダープログラムは農業（漁業と林業を含む）政策でジェンダー問題に対応する加盟国を支えてきました。プログラムの核となるのは、キャパシティビルディング（能力強化・向上）です。研修や研修教材・ガイドライン、技術支援、政策・技術面での助言の提供を通じて、スタッフ、パートナー、加盟国がジェンダー視点での食料安全保障や貧困に関する知識や技能の幅を広げます。

これまでの実績は次のとおりです。

- 100カ国以上で、現場、組織、政策レベルで活動する開発専門家4,000人以上に研修を行いました。
- 30カ国以上で、ジェンダー問題に配慮した農業・農村開発のための国の行動計画の策定を支援しました。
- 2000年と2010年の「世界農業センサスプログラム（World Programme for the Census of Agriculture）」で、ジェンダー視点のガイドラインの作成を技術面で支援しました。
- ジェンダー視点の農業統計の作成で40カ国以上に技術支援を行ったほか、農業センサスにジェンダーの要素を入れるためのデータセットの再集計を10カ国以上で支援しました。
- 開発専門家がジェンダー視点の政策を策定

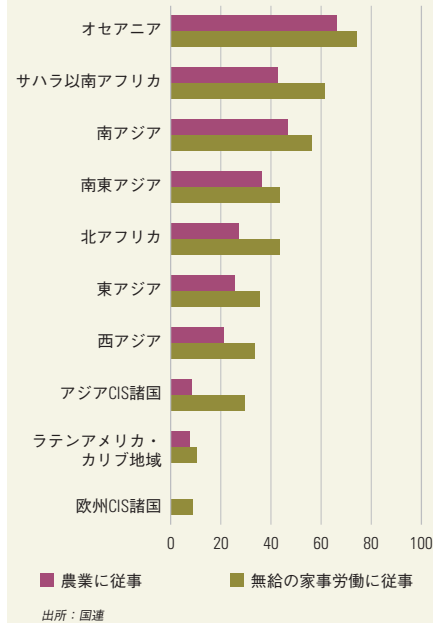
し、男女別データの収集、再集計を行うことができるよう能力強化を支援しました。

- 世界銀行と国際農業開発基金と共同で、「農業におけるジェンダーソースブック（Gender in Agriculture Sourcebook）」を作成しました。
- 食料安全保障、財産権、HIV・エイズの問題に取り組むジェンダー視点の広報キャンペーンを実施しました。

FAOでは、ジェンダー平等と女性の地位向上に関する国連の全体方針に沿って、独自のプログラムを強化しています。このほかにも、開発戦略に男女別の問題を盛り込むために、職員や加盟国への支援を充実させる対策を導入しています。

FAOの2008年から2013年までの第4次「ジェンダーと開発行動計画（Gender and Development Plan of Action）」では、食料と栄養、天然資源、農村経済、労働と生活、農業・農村開発政策の各分野でのFAOのジェンダー戦略について説明しています。行動計画では、現在の世界的課題のほか、農業生物多様性、緊急支援・復興活動、食料価格の変動、気候変動とバイオエネルギー、疾病（人間、動物、植物）、グローバル化（貿易、機構変革）など、食料安全保障にかかわる重要問題のジェンダー面にも配慮しています。

農業に従事する女性、無給の家事労働に従事する女性の割合（2007年）



農業以外で有給労働に従事する女性の割合（2006年）

